

教育プログラム・インテンシブコースの概要

大学名等	京都大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	家族性腫瘍(遺伝子乳がん卵巣がん症候群やリンチ症候群など)に対応できる医療人育成コース(インテンシブコース)						
対象者	医学研究科大学院生、大学院研究者、遺伝カウンセラー、薬剤師、看護師						
修業年限(期間)	3回/年(セミナー、トレーニングコース)						
養成すべき人材像	ゲノム医療の臨床実装の中で遭遇する、偶発的所見・二次的所見を正しく理解し、適切に対応できる医療人が求められる。						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	京都大学附属病院では2015年4月よりわが国ではじめて網羅的がん遺伝子変異検査を臨床現場に導入し、ゲノム医療に必要な実践的ノウハウを蓄積している。網羅的遺伝子検査の結果について毎週1回、担当医、がん薬物療法専門医、臨床遺伝専門医、病理医、バイオインフォマティクス、遺伝カウンセラー、ゲノム基礎研究者、など多職種メンバーが集まるチームカンファレンスで検討している。これらの場を生かし、十分なon the job trainingを経験できるとともに、学内外のゲノム研究者、倫理研究者との連携による教育体制を構築し、臨床と基礎、社会医学と他領域の知識を兼ね備えた人材の育成が可能である。						
指導体制	・京都大学および連携大学の教職員による講義、実習、研究指導						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場におけるゲノム医療の実践と体制整備への貢献 ・ゲノム医療を実践できる医療機関でのキャリアパス ・ゲノム医学の発展を目指した研究開発へ従事 						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	5	10	10	10	10	45
	薬剤師	5	5	5	5	5	25
	看護師	5	5	5	5	5	25
	研究者	5	5	5	5	5	25
	遺伝カウンセラー	5	5	5	5	5	25
	計	25	30	30	30	30	145